

## 2019 年度(後期)海外渡航旅費助成金成果報告書

北海道大学大学院理学院 修士 2 年

水谷 歩

日本地震学会より助成していただき、2019 年 12 月 9 日～13 日にアメリカはサンフランシスコにて開催された AGU Fall Meeting 2019 へ参加しましたので、その成果について報告します。

学会では、『Near-fault ocean-bottom observation of an offshore earthquake by DONET: Array-based measurement of tsunami phase speed and early estimation of tsunami height』というタイトルで、断層近傍の海底水圧記録を用いた津波位相速度計測および津波即時把握手法について発表しました。これは、広域・稠密な沖合地震津波観測網である DONET が整備されたからこそ可能になった研究であり、新規性のあるテーマとして海外の研究者にアピールする良い機会になりました。

海外学会へ参加することだけでなく海外渡航も初めてであったため、英語で十分にコミュニケーションをとることができるのか不安でしたが、事前準備に加え、質問者の方が聞き取りやすい比較的ゆっくりとした英語で質問をしてくれたこともあり、海外の研究者の方々と有意義な議論ができたと思っています。その中では、日本国内ではこれまで一度も聞かれなかったような質問を受けることもあり、海外と国内の考え方・常識の違いを実感するとともに、自分の研究をこれまでなかった視点で見つめ直すことができました。

津波に関連するセッションでは、2018年に発生したスラウェシ島地震による津波とクラカタウ火山の山体崩壊に伴う津波についての発表が多くありました。これらの津波についてはニュースなどで知ってはいたものの、これほど研究者の関心が高いとは思っていなかったため、この動勢は衝撃的でした。興味深い結果もいくつかあり、今後は自分の研究だけに閉じこもらず、日頃から広く関心を持つと反省させられました。

また、津波速報についての発表では、陸上の加速度記録をそのまま使うものや電離圏擾乱を利用したものなど、様々なアイデアがあり面白かったです。一方で、多くの発表では津波を検出するまでに1-2時間程度必要であるとしており、アメリカと日本では、少なくとも津波に関しては、“速報”の意味するタイムスケールが大きく異なっていると感じました。

日本と異なる文化圏での生活は、たとえ一週間という短い期間であっても大変刺激的であり、今後の海外留学等について、これまで以上に真剣に考えるきっかけになったと感じています。

最後になりましたが、海外渡航旅費助成金に採択してくださった日本地震学会および関

係者の皆様に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。